

## 技術支援結果を踏まえた課題等の整理（案）

## 1 防災本部が実施する防災訓練の現状について

三重県及び北海道で実施された防災訓練への技術支援及びその事前打ち合わせ等を通じて、防災本部における防災訓練の現状として次のような特徴が認められた。

- ・ 災害の進展に加え、どの機関がいつ何をするかまで、すべて決められたシナリオに沿って展開し、スムーズに活動が進んでいく様子を観覧客等に見せるもので、訓練というより演習に近いものとなっていること。
- ・ 訓練の目的として、概ねどの防災本部の訓練においても関係機関の連携を強化するという目的が示されている傾向にあるが、防災本部における災害対応への判断や情報の伝達及び共有体制等の機能を強化するという目的での訓練項目はないこと。
- ・ 防災本部としての訓練への参加がなく、防災本部の運営等を担当する道府県職員等については案内やアナウンス等の裏方としての参加が多いこと。

このような訓練（いわゆる演習）は、災害対応の全体像を把握する、住民等に対する防災意識の高揚、啓発及び広報等の意味では有効であるかと思うが、防災本部の機能及び関係機関相互の連携を強化する訓練としては、必ずしもその役割を果たしていないものと考えられる。その理由は次に示すとおりである。

- ・ すべて決められたシナリオどおりに活動をするため、災害への対応の検討や判断等の要素が訓練内容に含まれていないこと。また、関係機関との連携に対する意識が希薄となり、形式的なものとなりやすいこと。
- ・ 道府県職員等にとっては、訓練の実施準備にあたり、災害想定を考える、各防災関係機関との調整を実施する等の過程を経て、意識や知識の向上等に繋がるが、一部の担当者のみ限定されるものであること。
- ・ 防災本部としての訓練への参加がなく、防災本部の機能強化には繋がりにくいこと。

石油コンビナート等特別防災区域を有するすべての道府県について確認したものではないが、他の道府県防災本部が実施する防災訓練についてもこのような現状となっている傾向があるものと考えられる。

## 2 防災本部の機能強化等のための訓練について

防災本部として重要な機能は、災害時における問題点の管理や対応についての検討及び判断、関係機関への情報伝達・共有等であると考えられる。よって、これらの機能を強化するためには、防災本部として訓練に参加することはもとより、災害のフェーズに応じた災害対応について検討及び判断する要素、関係機関への情報伝達や共有を図る要素等を訓練内容に取り入れておくことが必要である。

具体的には、地震の規模や災害想定等、大筋のシナリオは訓練実施者に示されていても良いが、細かい活動内容までは示さず、その場その場で訓練実施者に考えさせる「発災対応型」の要素を取り入れることが重要である。また、訓練を実施するにあたっては、必要となる情報や災害の付加想定等を示すコントローラー及び訓練を客観的に評価する審査者を訓練実施者とは別に設けておくなど、防災本部の機能強化に繋がる訓練や訓練の実施体制のあり方について検討していく必要がある。

特に、訓練の企画段階から参画し、災害の想定・進展シナリオ、関係者に求められる対応、調整事項等について、十分把握しておくことは防災本部の機能を強化するための教育の観点からも不可欠である。すなわち、訓練の計画立案者、コントローラー、審査者及び訓練実施者をバランス良く経験することにより、組織全体としての対応能力を高めることが可能と考えられる。

### 3 標準災害シナリオと評価項目の活用について

消防庁で今年度作成することとしている標準災害シナリオ及び評価項目は、各道府県防災本部において訓練を計画する際に、災害のフェーズごとにどのような活動をする必要があるか、その際にポイントとなることは何か等を把握するための例示となるものを想定しており、訓練の計画立案者、コントローラー及び審査者が活用するものとして考えている。

前述したとおり、現状の防災訓練の多くは、いわゆる演習になっている傾向があると考えられ、必ずしも防災本部の機能強化には繋がっていないと考えられることから、各道府県防災本部にはそうした演習とは別に、標準災害シナリオ及び評価項目を活用して、防災本部の機能強化を目的とした新たな訓練及び訓練体制を構築し、実施していくことが求められる。